

# 用具仕様研究

## エグゼクティブ・サマリー（概要）

2022年6月

### 概要

当初の R&A/USGA 研究トピック—関心のある分野（2021年2月）に記載されているように、R&A ルールズリミテッド（The R&A）と USGA は技術レベルとスイング速度の幅広い範囲にわたって、下記に影響を及ぼす可能性があるクラブとボールの両方の仕様の変更を行う影響を評価してきました：

- ドライビング距離の減少に導く
- バッグの中の（ドライバー以外の）他のクラブについて距離の減少に導く
- 飛距離とそれ以外の技術のバランスを改善することに導く

同時に、そうした用具仕様に直接関連する事項を超えた他の分野についても研究を行ってきました。

「用具仕様研究」の文書では、以前に行われた関連する研究を含み、2021年2月の「関心のある分野」に含まれていた用具仕様に直接関連するトピックについて行われた研究結果を詳述しています。

この研究では、ドライビングレンジでのテストとプレーイングテストの両方において、このゲームのすべてのレベルのゴルファーを対象とし、参加させています。シミュレーションが行われる場合、その効果はエリートプロフェッショナルとアベレージアマチュアレベルの男性と女性の両方のゴルファーを反映する条件で研究されました。

### 現時点で継続されないことになった研究分野

この研究に基づき、下記の事項は現時点で今後の研究分野として想定されていません。

- a. ラフからのショットの難易度に影響する用具の要因

PGA ツアーのパフォーマンス統計分析、ドライビングレンジでのエリートアマチュアゴルファーのテスト、ラフからのスピンを減じるように修正した用具でプレーしたラウンド後のイン

タビュー、そして戦略最適化では、ラフからプレーすることの不利益を増すことはドライブ距離の有意な変化に導くという仮説への支持は示されませんでした。

b. ティーイングの高さの影響

ティーイングの高さを著しく低くした場合、特にロボットテストにおいて、かなりの飛距離の減少につながるような状況がありました。しかしながら、ボールやクラブのデザインや選択はそうした飛距離の減少を緩和することを示しており、その影響はテストを行ったすべてのゴルファーに一貫したものではなかったことから、この分野はドライビング距離の変更のための方法としては続行しないこととなります。

c. ゴルフボールの最小スピン仕様

異なる空力設計のゴルフボールはスピンを増やす特徴を有する構造を緩和し得ること、また、（クラブヘッドの使い方に起因して）生来より多くのスピンを持つゴルファーは偏った影響を受けることが示されました。

d. ゴルフボールについて別のサイズと重量の仕様

より軽量な、あるいはより大きな直径のゴルフボールを使うことで恩恵を受けるゴルファーもいるかもしれませんが、利益はサイズや重量の仕様への有意な変更としては認識されず、いくつかの影響（弾道の高さと風への反応を含む）は望ましくないものであるかもしれません。